

私はこう使う!

/VCL インタビュー企画/

歯周病リスク検査

日頃から多くの歯科治療症例を経験され、当社の歯周病リスク検査を積極的に取り入れていただいている倉田大樹先生に当検査の活用法や導入後の変化等についてご意見を伺いました。



Interview

倉田大樹 先生

日本小動物歯科研究会理事 レベル4認定医

ワールド動物病院 歯科・口腔外科担当

大阪府高石市西取石1-9-9



1 歯周病リスク検査をどのタイミングで実施されていますか?

診察時のスクリーニング検査で行う場合と、麻酔下で検査を実施する2つのケースが有ります。前者は、検査を行う事で歯周病への飼い主さんへの注意喚起になります。基本は、麻酔下(全頭)での検査が大半となります。当院(ワールド動物病院)では、高齢犬や重度口内炎猫の紹介症例も多く、診察時に開口を嫌がり、検査が困難を極める場合が多いからです。

3 院内検査用のキットなどもありますが、外注検査を利用される理由は?

外注検査だと検査結果を用紙で頂けます。それを飼い主さんにお渡しする事で、今後のデンタルケア・次回の来院指示などへの活用に役立っています。次回の歯科処置時にも検査をする事で前回との比較、歯周病の進行程度、飼い主さんのデンタルケアの成果を結果用紙で説明出来ます。よって院内検査ではなく、外注検査を積極的に活用させていただいています。

歯周病リスク 検査報告書		サンプル			
ベツツクリニカル ラボ	さま ちゃん	VCL VET CLINICAL LABO			
カルテ No.: 12345-678		I.D. No.: 1000123			
動物種: 犬		受付日: 2018年6月20日			
年齢: 7歳 2ヶ月		報告日: 2018年6月21日			
性別: ♂ (去勢)		担当医: エサカ 先生			
◆ 今回の検査結果					
スコア値	判定				
1	陰性				
◆ 前回の検査結果					
スコア値	判定	前回報告日: 2018年5月10日			
4	強陽性 1				
◆ 判定結果の評価					
スコア値	1	2	3	4	5
判定	陰性	弱陽性	陽性	強陽性 1	強陽性 2
歯周病のリスク	安心	→ 注意	→ 要注意		
◆ スコア値のレベル					
レベル 1	歯周病原因菌のレベルが低い 各レベルの歯周病原因菌が存在				
レベル 2	歯周病原因菌がやや多い				
レベル 3	歯周病原因菌が多い				
レベル 4	歯周病原因菌が多い				
レベル 5	歯周病原因菌が非常に多い				

7 歯科診療における今後の展望・展開についてお聞かせ下さい

近年、飼育頭数の減少を耳にしますが、歯科に関しては先程も述べました様に、新規の患者さんを獲得せずとも、既存の患者さんで歯科検診、その際に歯周病のスクリーニング検査を実施する事で、歯科処置症例を獲得する事が可能です。当院でも歯科処置症例は、7年連続で増加しています。他の分野に比べて歯科はまだまだ開拓の余地がある分野だと思われます。

2 当該検査を行うことで、治療の進め方などに変化はありますか?

はい、確実に歯科診察の来院回数、歯科処置症例が増加しました。3歳以上の犬・猫の80%以上が歯周病に罹患しており、スクリーニング検査で実施した場合は、歯科処置を勧める判断基準になります。麻酔下で検査を行った際は、検査結果を踏まえて、デンタルケア・継続治療の必要性を説明し易くなりました。



4 検体の採取は難しくないですか?

難しくないです。犬の場合、犬歯のみでも検査結果が得られますのでスクリーニング検査でも簡単に行えます。

5 飼い主様の反応はいかがですか?

非常に良いです。重度歯周病で抜歯処置をした飼いさんは、判定が高い程デンタルケアなどへの意識が高まり、定期検診を希望されます。来院回数も増加しますし飼い主・病院双方に有益になります。

6 歯科を専門的に診ていない先生でもこの検査は活用できますか?

はい、出来ます。歯科は通院されている患者さん全てが対象となりますから、積極的にお勧めすれば興味を持つて頂ける患者さんは必ずいます。